



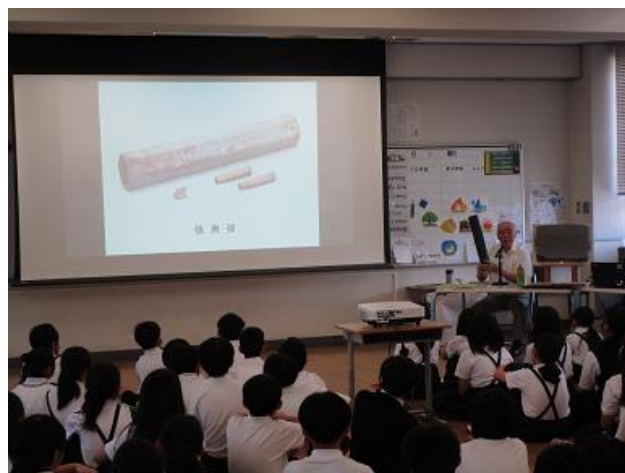
平和の大切さについて

9月5日（金）に6年生を対象に平和の語り部による体験談を聞く学習を行いました。講師の方は、今の6年生と同じ年頃に終戦を迎えていますので、90歳を超えられています。当時は、勉強どころではなかったこと、防空壕に避難するなどして生きること、精一杯だったことなど、実体験に基づいたお話を伺うことができました。以下、子どもたちの感想です。

【平和の語り部のお話を聞いた感想】

📖 お話を聞いて、私は、B29などの戦闘機、そして、戦争がとても恐ろしいということを伝えていくべきだなと思いました。実際に戦争を経験しなければ分からない生きるための努力、多くの悲しみを教えていただきました。今日教えていただいたことを胸にとめておき、修学旅行先の原爆ドームに行きたいなと思います。B29を「川とノリオ」で知った時には、攻撃せずに過ぎ去る姿を絵で見たので、講師の方の絵や話でB29は思ったよりも爆弾を落として、攻撃していて、改めて怖さを覚えました。急に戦争が始まると告げられた時、松山の町が焼け野原になったとき、その不安はとても大きいと思います。「戦争は明日生きている保証はない」という、この怖さや不安を、今感じることはないようにするためにも、経験をしていない私たちも伝えていくことが大事だと感じました。

📖 僕は、昨日本を見て、どれだけ辛かったのだろう、と思いました。今日、実際に講師の方のお話を聞いて、本では伝えきれないほどの怖さがあることを知りました。あんなに大きい焼夷弾が役900個も落ちるなんて、もし自分に来たらもう余裕がなくて、無我夢中で遠くに逃げていたと思います。原爆が落ちた唯一の国なのだから、知ったことを近くの人に言うこと、自分が勉強して、もっと知って、原爆ドームでしっかり学んで、学んだことを伝えてみることをしたいです。みんなに戦争の怖さや原爆の悲しみなどを知ってもらって、戦争は絶対にしてはいけないことを伝えたいです。



戦後80年が経ち、戦争体験を直接聞くことが貴重な体験となっています。私も戦争体験者ではありませんが、これまでに学んだこと、親や祖父母から聞いたことなどを、子どもたちに伝えていく義務があると思っています。

ここで、潮見小学校の校歌の3番を紹介します。「鴨川の 清流を胸に むつみあう 潮見の我等 手を取りて世界の空に かぎりなき 平和の祈り つらぬこう 愛の心を」校歌の中に「平和」が示されていることの意義を感じながら、子どもたちには改めて「平和」について考えてほしいと思います。